

行政C
(職務経験者採用)



産業労働部 産業政策課
デジタルイノベーション戦略室
デジタルイノベーション戦略班
主査 持田 亜由子

経歴 採用12年目

- H30年 産業労働部 産業政策課
デジタルイノベーション戦略室
デジタルイノベーション戦略班
- H28年 産業労働部 商業貿易課
情報産業班
- H26年 教育庁 教職員給与課
調整・旅費・システム班
- H22年 企画振興部情報企画課
IT改革・情報基盤班
- H19年 入庁
生活環境文化部
男女共同参画課参画推進班
- H10年～18年 民間企業勤務

ある日のスケジュール

- 8:15 出勤
- 8:30 朝礼・朝コミ
- 9:00 メールチェック、事務処理、
資料作成等
- 9:30 企業訪問
- 12:00 昼食
- 13:30 委託事業者や首都圏担当者
との打ち合わせ
- 15:00 訪問記録、打ち合わせ記録
まとめ、資料作成等
- 17:15 退庁
- 18:00 子供を塾へお迎え
- 18:30 帰宅、夕食づくり
- 19:30 夕飯
その後、子供の宿題・家庭学
習チェック

わたしの職場はこんなところです

現在、第4次産業革命の進行や人口減少等により産業や就業構造は大きな変革期にあり、本県の産業・社会にとっても、将来を左右する重要な岐路にあります。このような状況のなか、県内の情報技術の活用促進と、それを支える県内情報産業の振興を図るため、平成30年4月に新設されたのが「デジタルイノベーション戦略室」です。デジタルイノベーションの推進に向けて、職員一同、日々新しい情報をインプット・アウトプットしながら、明るく、楽しく、一生懸命に活動しています。

わたしは今、こんな仕事をしています

ICT人材の確保を主なミッションとして、県内のICT企業が必要としている「人材」像をヒアリングするとともに、県内外の学生や就業希望者に県内ICT企業をPRする業務を行っています。

県内の情報産業発展には欠かせない「人材」をいかにして確保していくか、就業を希望する個人と県内ICT企業の双方が幸せになるマッチングを行うためにはどのようにしたらよいかを考えながら業務に取り組んでいます。

民間での勤務経験は県職員の仕事にどう活かしていますか？

前職では、ICT研修を得意とする総合人材研修企業でソリューション営業を担当していました。新会社立ち上げ時の人材育成体系策定コンサルティングを行ったこともあります。そのような経験が、県内企業との関係づくりやヒアリングの際に役立っていると思います。

また、「お客様あつての企業である」という視点が、自分個人ではなく、公務員・県の代表として県民の皆様の前に立っているという自覚を忘れず持ち続けられている原点だと思っています。

秋田県のここが好き！

帰秋、入庁した当時は、生活・土地勘がなくとまどうことも多くありましたが、地域の方々から助けていただき、「ありがとう」と御礼を言うと、「なんもだよ～」と言ってくれる優しさに感動しました。

温かくて、優しくて、世話好きだけどしゃばらない、秋田県人は秋田県の宝物だと思います。

入庁してから大変だったことはありますか？

出産休暇・育児休業を経て職場復帰した時、子供の病気等で仕事を休まざるを得ない時など、休暇を言い出しづらく悩みましたが、子供だけで無く父母等家族の介護でも休暇を取れる休暇制度や働きやすい職場づくりにより、今は必要な時に休暇を取得することができるようになりました。

困った時はお互い様で、一方的に助けてもらうだけではなく、自分も周りの役に立てるようにしようと考え、実行するようになってから、気持ちも楽になりました。県では、出産・育児・介護等を支援する制度が充実しています。

オフは何をしていますか？

平日の朝はお弁当、夜は夕食づくりと掃除、洗濯、子供達の宿題チェックと、とにかくバタバタしているため、週末は時短のために野菜を刻んだり、肉を小分けにして冷凍したり、魚を三五八に漬け込んだりしています。小学校高学年の子供達はしょっちゅう膝に穴を空けて帰ってくるので、繕い物も週末にまとめてやっています。

秋田県職員採用試験の受験を考えている方へ、ひと言！

県には、様々な分野の仕事がありますが、どんな部署にも頼れる先輩や優秀な仲間がいます。

秋田県のために力を尽くしたいという思いがあれば、前向きに取り組んでいけるとと思います。

行政C
(職務経験者採用)



建設部 建設政策課
担い手確保育成班
主事 遠藤 政宏

経歴 採用4年目

- H30年 建設部 建設政策課
担い手確保育成班
- H27年 入庁
産業労働部 地域産業振興課
企業支援班
- H21年 民間企業勤務
(素材技術開発担当)

ある日のスケジュール

- 8:15 出勤
- 8:30 朝礼・朝コミ
- 9:00 事務処理、メールチェック、
電話対応
- 10:00 建設産業の魅力発信事業
(建設ふれあいフェア)の資料
作成
- 12:00 昼食
- 13:00 公用車出張
建設ふれあいフェアについて
関係機関と打合せ
- 15:00 帰庁
班内情報共有、事務処理
- 16:00 出張復命書作成、
統計調査業務
- 17:00 事務処理、メールチェック
- 18:00 退庁
- 18:20 帰宅
- 19:00 夕食
- 20:00 風呂・読書・屋内ドローン練習
- 23:00 就寝

わたしの職場はこんなところですよ

秋田県の基幹産業である建設業は、県民の皆さんの安心で快適な暮らしを支える大事な仕事です。私の所属する「建設政策課」では、建設業の振興や指導・許可、入札・契約、用地に関する業務等を行っています。

また、秋田県の建設産業が抱える担い手不足対策のため、平成29年9月に建設政策課内に設立された「秋田県建設産業担い手確保育成センター」では、「若者」、「女性」、「ICT」をキーワードに、秋田を元気にする施策を実施しています。

わたしは今、こんな仕事をしています

建設産業の魅力発信活動や補助事業等を担当しています。

1つ目の魅力発信活動では、学生や女性等を対象とする建設ドローン体験交流会や小中学生を対象とする建設ふれあいフェア等のイベントを開催しています。

2つ目の補助事業では、建設産業団体が実施する高校生向け出前講座や新入社員向け研修会などの取組を支援しています。

建設産業に興味を持つきっかけや建設産業について知ってもらう機会を増やして、県内建設産業への就職・定着を促進し、建設産業が持続的に発展していくことを目指しています。

秋田県のここが好き！

四季がはっきりしていることです。春は大潟村の「菜の花ロード」で桜と菜の花のお花見ドライブをし、夏は「竿灯まつり」と「大曲の花火」で感動し、秋は「あきたこまち」の新米を味わい、冬は横手の「かまくら」に入って甘酒を飲む、もしくは田沢湖で「わらび座」の新春公演を観劇して「田沢湖ビール」を飲む。

後半は確実に太りますが、最高です。

民間での勤務経験は県職員の仕事にどう活かしていますか？

入庁前までは、電子部品の素材技術開発に関する仕事をしていました。机上や研究室レベルだけでなく、量産スケールの仕事をさせて頂いたことで、現場の作業者と一緒に汗を流すことも多かったです。こうした経験は、企業訪問や補助事業等の現場に近い業務に活かしています。

オフは何をしていますか？

天気の良い日は、ドライブに出かけて景色と名物を楽しんでいます。また、県職員として働き始めてから、県内の遺跡や歴史を調べに出かけることが増えました。九十九島について調べに象潟に向かい、魚介を食べて足湯に浸かるのも良いですし、伊勢堂岱遺跡を調べに大館へ向かい、鶏飯を食べて秋田犬と触れ合うのも楽しいです。

採用試験の準備はどのようにしましたか？

論文試験対策として、文章を書く練習と並行して、秋田県のホームページ「美の国あきたネット」に掲載している「重点施策推進方針」を確認しました。重点施策に対して、自分がどう活躍できるか整理しておくと思いいます。

秋田県職員採用試験の受験を考えている方へ、ひと言！

県職員には様々な政策課題に対する幅広い視野が求められます。言い換えると、県職員として働いていれば、秋田県のようなことを知る機会がたくさんあるということです。

秋田県について知れば知るほど、もっと秋田県が好きになります。